

2015年度東北地理学会第2回研究集会  
地理教育研究グループ第3回研究集会

テーマ：「高校地理教育の現状と課題を考える」

執筆者：西城潔（宮城教育大）

参加者：9名

日時：2015年10月3日（土） 13:30-16:30

場所：宮城教育大学6号館3階 631 教室

1. オーガナイザー(趣旨説明) 西城 潔（宮城教育大）
2. 報告Ⅰ 進学校における高校地理教育の実践例  
～思考力・判断力・表現力を育てる指導～ 岡崎幸彦（宮城県仙台南高）
3. 報告Ⅱ 時間軸と空間軸を身につけさせるための高校地理のあり方  
山内洋美（宮城県塩釜高）
4. コメンテーター 『地理基礎』の動きより 吉田 剛（宮城教育大）

#### 概要

地理教育研究グループ第3回目の研究集会を、上記要綱で開催した。第1回での「中学校の動的な地誌学習について考える」、第2回の「小学校の地理学習『身近な地域に学ぶ』」というテーマに続き、本研究集会では高校地理教育の現状と課題を取り上げることとした。オーガナイザーによる趣旨説明に続き、宮城県内の2つの県立高校での授業実践にもとづく報告と1件のコメント、さらに総合討論という流れで進められた。

オーガナイザー（西城）からは、大学の授業科目（自然地理学概論）の受講生の高校での地理履修状況や、アンケートにもとづく彼らの地理に対する意識調査の結果をもとに、高校の地理教育への期待が述べられた。

宮城県仙台南高校の岡崎幸彦氏による報告Ⅰでは、同校での地理学習の現状と指導にあたっての留意点、指導実践の具体的事例などが紹介された。指導上では、知識・技能だけでなく「なぜ・どうして」や「作業」を重視し、思考力・判断力・表現力を養うための発問・課題・演習を多く盛り込む方針が採られているとのことであった。またグループ学習や学校周辺での巡検の実施、ゲーム的要素も取り入れた模試の対抗戦など、生徒の意欲を引き出すためさまざまな学習形態の工夫もなされている。いわばアクティブラーニング（AL）の取り組みであるが、地理の授業では、思考力・判断力・表現力を身に付けさせる指導をすれば、結果的にALになるはずであるとの感想で締め括られた。

宮城県塩釜高校の山内洋美氏による報告Ⅱでは、高校地理をめぐる問題として、地理を

専門とする教員が想像以上に作図を不得手としていること、受験指導上の都合から生徒が地理を選択し難い状況にあること、巡検やフィールドワークの実施が難しい現状、空間認識の欠如した児童生徒の実態などが紹介された後、空間軸・時間軸を身に付けさせる地理学習の必要性が述べられた。そして、その具体的な取り組み事例として、新旧地形図の読図と学校周辺でのフィールドワーク（巡検）とを組み合わせた授業実践が紹介された。また併せて、日常の取り組みの中で身体感覚を鍛えることの重要性についても言及があった。

続くコメントでは、「地理基礎」の概要、単元の展開と評価などをふまえ、今後の高校地理教育に関する展望が述べられた。

最後の総合討論では、2名の報告者およびコメンテーターの発表内容をもとに、学習内容や方法、とくに読図やフィールドワークの可能性、それらを効果的に進めるための工夫と方法、系統地理と地誌学習との関係などを論点に、少人数ながらも活発な質疑応答や意見交換が行われた。